

A decorative border with a repeating floral and vine motif surrounds the text.

古典集成

伊勢物語

渡辺実校注

新潮社版

新潮日本古典集成 (第二回)
伊勢物語いせものがたり



定価 1100円

昭和五十一年七月五日 印刷
昭和五十一年七月十日 発行

校注者 渡辺実わたべ みのる

発行者 佐藤亮

印刷所 大日本印刷株式会社
発行所 株式会社 新潮社

〒一六二 東京都新宿区矢来町七一
電話 東京03(二六六)五一(業務)
東京03(二六六)五四(編集)
振替 東京 四一八〇八

装画 佐多芳郎
組版 シーティエス大日本
製本 新宿加藤製本

乱丁・落丁本は、御面倒ですが小社通信係宛御送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

目次

凡例	九
----	---

伊勢物語	二
------	---

解説 説（伊勢物語の世界）	三七
------------------	----

附説 説（原伊勢物語を探る）	一五
-------------------	----

附録 録（伊勢物語和歌綜覧）	三七
-------------------	----

- 初 むかし、男、うひかうぶりして、……………初冠 三
- 二 むかし、男ありけり。平城の京ははなれ、……………雨の後朝 四
- 三 むかし、男ありけり。懸想じける女のもとに、……………二条后―ひじき藻 五
- 四 むかし、ひむがしの五條に、……………二条后―わが身ひとつは 六
- 五 むかし、男ありけり。ひむがしの五條わたりに……………二条后―恋路の関守 七
- 六 むかし、男ありけり。女のえ得まじかりけるを、……………二条后―鬼一口 八
- 七 むかし、男ありけり。京にありわびて東にいきけるに、……………東下り―かへる浪 九
- 八 むかし、男ありけり。京や住み憂かりけむ、……………東下り―けぶり立つ山 一〇
- 九 むかし、男ありけり。その男、身を要なきものに……………東下り―限りなく遠い都 二
- 十 むかし、男、武藏の国までまどひありきけり。……………武藏―たのむの雁 三
- 十一 むかし、男、東へゆきけるに、……………武藏―雲居のほど 四
- 十二 むかし、男ありけり。人のむすめを盗みて、……………武藏―つまこもれり我もこもれり 五
- 十三 むかし、武藏なる男、京なる女のもとに、……………武藏―武藏鎧 六
- 十四 むかし、男、みちの国にすずろに行きいたりにけり。……………陸奥―姉齒の松 七
- 十五 むかし、みちの国にて、なでふ事なき人の妻に通ひけるに、……………陸奥―えびす心 八
- 十六 むかし、紀の有常といふ人ありけり。……………天の羽衣 九
- 十七 年ごろおとづれざりける人の、……………年にまれなる 一〇
- 十八 むかし、なま心ある女ありけり。……………なま心 一一
- 十九 むかし、男、宮仕へしける女のかたに、……………あるものか 一二

- 二 十 むかし、男、大和にある女を見てよばひて逢ひにけり。……………春のもみぢ 三四
- 二 一 一 むかし、男、女、いとかしく思ひかはしてこと心なかりけり。……………世のありさま 三五
- 二 二 二 むかし、はかなくて絶えにけるなか、……………かつうらみつ 三七
- 二 三 三 むかし、田舎わたらひしける人の子ども、……………筒井簡 三八
- 二 四 四 むかし、男、かた田舎に住みけり。……………年の三年を待ちわびて 四一
- 二 五 五 むかし、男ありけり。逢はじとも言はざりける女の、……………逢はで寝る夜 四三
- 二 六 六 むかし、男、五條わたりなりける女を……………唐土舟 四四
- 二 七 七 むかし、男、女のもとにひと夜いきて、……………蛙の諸声 四四
- 二 八 八 むかし、色このみなりける女、……………逢ふ期がたみ 四五
- 二 九 九 むかし、東宮の女御の御方の花の賀に、……………花の賀 四六
- 三 〇 〇 むかし、男、はつかなりける女のもとに、……………はつかなりける女 四六
- 三 一 一 むかし、宮の内にて、……………ならむさが 四七
- 三 二 二 むかし、ものいひける女に、年ごろありて、……………しづのをだまき 四八
- 三 三 三 むかし、男、津の国、菟原の郡に通ひける女、……………よしや、あしや 四八
- 三 四 四 むかし、男、つれなかりける人のもとに、……………おもなくていへる 四九
- 三 五 五 むかし、心にもあらで絶えたる人のもとに、……………絶えてのち 五〇
- 三 六 六 むかし、忘れぬるなめりと問ひ言しける女のもとに、……………玉かづら 五〇
- 三 七 七 むかし、男、色このみなりける女にあへりけり。……………下紐とくな 五一
- 三 八 八 むかし、紀の有常がいきたるに、……………これをや恋といふ 五二

三十九	むかし、西院の帝と申す帝おはしましけり。		女車の聲	三
四十	むかし、若き男、けしうはあらぬ女を思ひけり。		むかしの若人	四
四十一	むかし、女はらから二人ありけり。		紫の色こき時	五
四十二	むかし、男、色このみと知る知る、		もの疑はしさに	六
四十三	むかし、賀陽の親王と申す親王おはしましけり。		しでの田長	七
四十四	むかし、縣へゆく人に馬のはなむけせむとて、		裳のはなむけ	八
四十五	むかし、男ありけり。人の娘のかしづく、		迷惑な服喪	九
四十六	むかし、男、いとうるはしき友ありけり。		うるはしき友	十
四十七	むかし、男、ねむごろにいかでと思ふ女ありけり。		大幣のひく手あまた	十一
四十八	むかし、男ありけり。馬のはなむけせむとて、		待つ苦しさ	十二
四十九	むかし、男、妹の、いとをかしげなりけるを見をりて、		はつ草	十三
五十	むかし、男ありけり。うらむる人をうらみて、		あだくらべ	十四
五十一	むかし、男、人の前栽に菊うゑけるに、		菊を賀す	十五
五十二	むかし、男ありけり。人のもとより、かさなり粽おこせたりける		答札の雉子	十六
五十三	むかし、男、逢ひがたき女に逢ひて、		逢ひがたき女	十七
五十四	むかし、男、つれなかりける女にいひやりける。		つれなかりける女	十八
五十五	むかし、男、思ひかけたる女のえ得まじうなりての世に、		え得まじうなりし女	十九
五十六	むかし、男、臥して思ひ、起きて思ひ、思ひあまりて、		露の宿り	二十
五十七	むかし、男、人しれぬ物思ひけり。		われから	二十一

- 五十八 むかし、心づきて色ごのみなる男、……………田を刈る女たち 七〇
- 五十九 むかし、男、京をいかが思ひけむ、……………權のしづくか 七
- 六十 むかし、男ありけり。宮仕へいそがしく、……………むかしの人 七
- 六十一 むかし、男、筑紫まで行きたりけるに、……………そめ河 七
- 六十二 むかし、年ごろおとづれざりける女、……………こけるから 七
- 六十三 むかし、世ごろつける女、……………つくも髪 七
- 六十四 むかし、男、みそかに語らふわざもせざりければ、……………玉すだれ 七
- 六十五 むかし、おほやけ思つてつかう給ふ女の、……………恋せじの襖 七
- 六十六 むかし、男、津の国にしる所ありけるに、……………うみわたる舟 七
- 六十七 むかし、男、逍遙しに、思ふどちかいつらねて、……………花のはやし 七
- 六十八 むかし、男、和泉の国へ行きけり。……………住吉の浜 七
- 六十九 むかし、男ありけり。その男、伊勢の国に……………伊勢斎宮―君や来し我や行きけむ 七
- 七十 むかし、男、狩の使より帰り来けるに、……………伊勢斎宮―みるめ刈るかた 七
- 七十一 むかし、男、伊勢の斎宮に、内の御使にて……………伊勢斎宮―神の斎垣も 七
- 七十二 むかし、男、伊勢の国なりける女、またえ逢はで、……………伊勢斎宮―大淀の松 七
- 七十三 むかし、そこにはありと聞けど、……………伊勢斎宮―月のうちの桂 七
- 七十四 むかし、男、女をいたうらみて、……………伊勢斎宮―かさなる山 七
- 七十五 むかし、男、伊勢の国に率て行きてあらむといひければ、……………ましてつれなく 七
- 七十六 むかし、二條の後の、まだ東宮の御息所と申しける時、……………二条后―神代のこと 七

- 七十七 むかし、田村の帝と申す帝おはしましけり。……盛大な法事 九
- 七十八 むかし、多賀幾子と申す女御おはしましけり。……苔の蒔絵 三
- 七十九 むかし、氏の中に、親王うまれ給へりけり。……氏の中の親王 四
- 八十 むかし、おとろへたる家に、……春はいくかも 六
- 八十一 むかし、左のおほいまうちぎみいまそかりけり。……河原院の塩釜 七
- 八十二 むかし、惟喬の親王と申す親王おはしましけり。……惟喬親王―交野の桜 八
- 八十三 むかし、水無瀬にかよひ給ひし惟喬の親王、……惟喬親王―小野の雪 九
- 八十四 むかし、男ありけり。身はいやしなから、母なむ宮なりける。……さらぬ別れ 一〇
- 八十五 むかし、男ありけり。わらはより仕うまつりける：惟喬親王―雪に降り籠められたり 一〇
- 八十六 むかし、いと若き男、若き女をあひ言へりけり。……いと若き男女 一一
- 八十七 むかし、男、津の国菟原の郡、蘆屋の里にしるよしして、……布引の滝 一二
- 八十八 むかし、いと若きにはあらぬ、これかれ友だちども集りて、……月をもめでじ 一三
- 八十九 むかし、いやしからぬ男、我よりは勝りたる人を思ひかけて、……なき名 一四
- 九十 むかし、つれなき人をいかでと思ひわたりければ、……あな頼みがた 一五
- 九十一 むかし、月日のゆくをさへ歎く男、……春を惜しむ 一六
- 九十二 むかし、恋しさに、来つつかへれど、……棚なし小舟 一七
- 九十三 むかし、男、身はいやしくて、いとになき人を……あふなあふな思ひはすべし 一八
- 九十四 むかし、男ありけり。いかがありけむ、その男、すますなりにけり。……絵かく女 一九
- 九十五 むかし、二條の后に仕うまつる男ありけり。……へだつる関 二〇

- 九十六 むかし、男ありけり。女をとかくいふこと月日へにけり。…………天の逆手 一二三
- 九十七 むかし、堀河のおほいまうちぎみと申す、いまそかりけり。…………老いらく 一二四
- 九十八 むかし、おほきおほいまうちぎみと聞ゆる、おはしけり。…………造り花 一二五
- 九十九 むかし、右近の馬場のひをりの日、…………右近の馬場のひをりの日 一二六
- 百 むかし、男、後涼殿のはさまを渡りければ、…………忘れ草 忍ぶ草 一二七
- 百一 むかし、左兵衛督なりける在原の行平といふありけり。…………ありしにまさる藤 一二七
- 百二 むかし、男ありけり。歌はよまざりけれど、…………親族なる尼 一二九
- 百三 むかし、男ありけり。いとまめにじちようにて、…………寝ぬる夜の夢 一二〇
- 百四 むかし、ことなる事なくて尼になれる人ありけり。…………めくはせよ 一二〇
- 百五 むかし、男、かくては死ぬべしといひやりたりければ、…………かくては死ぬべし 一二三
- 百六 むかし、男、親王たちの逍遙し給ふところになうでて、…………龍田川 一二三
- 百七 むかし、あてなる男ありけり。…………代作の恋 一二三
- 百八 むかし、女、人の心をうらみて、…………聞きおひの答歌 一二四
- 百九 むかし、男、友だちの、人を失へるがもとにやりける。…………人と花と 一二五
- 百十 むかし、男、みそかにかよふ女ありけり。…………魂むすび 一二五
- 百十一 むかし、男、やむことなき女のもとに、…………まだ見ぬ人 一二六
- 百十二 むかし、男、ねむごろにいひ契りける女の、…………塩焼く煙 一二七
- 百十三 むかし、男、やもめにて居て、…………短き心 一二八
- 百十四 むかし、仁和の帝、芹川に行幸し給ひける時、…………翁さび 一二八

- 百十五 むかし、みちの国にて、男、女、すみけり。……………陸奥の別れ 二九
- 百十六 むかし、男、すずろにみちの国までまどひいにけり。……………陸奥からの便り 二〇
- 百十七 むかし、帝、住吉に行幸し給ひけり。……………住吉の神 二〇
- 百十八 むかし、男、久しく音もせで、……………久しく音もせで 二三
- 百十九 むかし、女の、あだなる男の形見とて……………形見こそ今はあだなれ 二三
- 百二十 むかし、男、女のまだ世へずと覚えたるが、……………筑摩の祭 二三
- 百二十一 むかし、男、梅壺より雨にぬれて……………鶯の花笠 二三
- 百二十二 むかし、男、契れることあやまれる人に、……………井手の玉水 二四
- 百二十三 むかし、男ありけり。深草に住みける女を、……………鶉となりて 二四
- 百二十四 むかし、男、いかなりけることを思ひける折にか、……………思ふこと言はで止まむ 二五
- 百二十五 むかし、男、わづらひて、心地死ぬべくおぼえければ、……………つひにゆく道 二五

凡 例

一、本文は、学習院大学現蔵の天福本、すなわち藤原定家自筆本を三条西実隆が臨写した本を底本とするが、底本の忠実な翻刻を志すよりは、読みやすいテキストの提供を志した。すなわち仮名づかいは歴史的仮名づかいに統一し、仮名には適宜漢字を宛て、句読点や会話の「」を附するなど、底本の表記に手を加えてある。漢字は原則として現行の字体にした。

一、ただし、文字表記以外、底本には手を加えぬ方針をとり、他本による語句の訂正は四力所にとどめた（十四段の「あれはの松」を「あねはの松」に、二十三段の「心にくも」を「心にくくも」に、八十一段の「たいしき」を「いたじき（板敷）」に、八十七段の「ゑうのすけ」を「ゑふのすけ（衛府佐）」にそれぞれ改めた）。

一、本文中、勘物（かんぶつ）（写し手でもあった読者が、作中の登場人物や事項について簡単な考証を書き添えた部分）およびこれに準ずると認められる箇所については、改行二字下がりで区別した。

一、注は傍注ならびに頭注による（ともに現代仮名づかい）。現代語訳は主として傍注で、説明および和歌の解釈は頭注で、という原則であるが、スペースその他の関係で、便宜に従ったものも少なくない。なお、傍注で本文にない言葉を補った場合は「」印を附した。傍注は色刷りによる。

一、現代語訳は、なめらかな現代訳であるとともに原文の表現性を過不足なく伝えるものであること

が理想だが、この二つを同時に充たすことはむづかしい。和歌の訳では特に困難で、両者の間を縫うような形となったけれども、どちらかと言えば原文の側に寄っているであらう。

一、各段冒頭の頭注欄に、その段の内容にふさわしい標題を、色刷りで掲げた。原文の言葉をとったものと、内容に沿って適宜標題を与えたものがあるが、いずれも歴史的仮名づかいによった。

一、各段の頭注の最後（長い段の場合は途中の話の切れ目）に、*印の欄を設け、傍注・頭注では及び得ない解説を試みた。読み落しやすい各段の読みどころを指摘することになった場合が多いが、巻末の「解説」や「附説」を参照されることを希望する。

一、巻末の「解説」は、現在の『伊勢物語』が古典として有する魅力に、内容・表現・素材の各方面から迫ろうとしたものである。これに対して「附説」は、現在の『伊勢物語』を通して、最も古い原『伊勢物語』の姿を推定し、そこから始まって現在の『伊勢物語』に至る過程を推測しようとした試みである。

一、巻尾に附録として「伊勢物語和歌綜覧」を添える。これは現『伊勢物語』の和歌の、出典とおぼしきもの、『伊勢物語』に取材して入集されたとおぼしきもの、および類歌・異伝の類を集めたものである。『伊勢物語』の成立・成長、『伊勢物語』の読まれ方、などを探る参考とならう。本文各段の和歌の下に付けた通し番号は、これの参照に資するためのものである。

一、「解説」と「附説」は、本文をはさんで、「解説」―「本文」―「附説」の順に置かれるという予定のもとに執筆したものである。本書の成稿は昭和五十年五月である。

伊
勢
物
語

一冒頭に時代・主人公を紹介するのが当時の物語の普通の形式だが、『伊勢物語』では時代・人物を特定せず、「むかし、男……」とだけ言うのが特徴である。

二今の奈良春日野の辺。『伊勢物語』では場所を記さない場合が多いが、ここでは地名を歌にのみ込んだ「男」の手際を語る必要上、地名を記している。

三「なまめく」は新鮮な美しさ。古風な美人でなくむしろ当代風な美人の形容。だから「古里」に「はしたなし」（不釣合い）ということになる。

四「垣間見」の音便。物の隙間から見てしまった。「て」は完了、「けり」は過去の助動詞。

五奈良を「古里」（旧都）と表現することで、間接的に物語の時代が限定される。

六元来は狩に着る服で、平安中期からは貴族の平服。七奥州信夫郡に産する織物で、模様を摺りつけて染めるので「信夫摺り」という。『伊勢物語』では人物の着衣など語らないのが普通だが、歌との関係で記した。

八「若く美しあなたがあたが故に、私の心のひそかな乱れは、この信夫摺りのように限りも知れませんか」

「若紫」は、若い女性の比喩で、信夫摺りの原料に使う紫草を懸け、「しのぶのみだれ」は、「信夫摺りの乱れ模様」と「心に忍ぶ乱れ」とを懸けたもの。信夫摺りの着衣の裾を切りこの歌に添えて贈ったので、これら縁語を織り込んだ歌の即興の効果がきいている。

初

「^一むかし、男、^{元服して}うひかうぶりして、^二平城の京、春日の里に^三住み^{姉妹が}して、^四狩に往にけり。その里に、いと^五なまめいたる女は^六らから^七住み^八けり。この男、^九かいまみてけり。おもほえず、^{一〇}古里に^{一一}いと^{一二}はした^{一三}な^{一四}くてありければ、^{一五}心地まどひにけり。男の着たりける^{一六}狩衣の裾を^{一七}切^{一八}りて、^{一九}歌を書きてやる。その男、しのぶずりの^{二〇}狩衣を^{二一}なむ着たりける。」

春日野の若紫のすり衣わかしらさき

しのぶのみだれかぎり知られず

1

となむ、^{経験をつんだ大人みたいに}おいづきていひやりける。

情況があつたえ向きに出来ていたと思つたのであろうか、
ついでにおもしろきことともや思ひけむ、

一（あなた以外の）誰のせいでも心が乱れ始めた私ではありまじのに（すべてあなたのせいです）初二句は「みだれ」の序詞。河原左大臣源融の有名な歌（古今集）恋四。「なくに」は、「ぬ（否定）十あく（形式名詞）十に（助詞）」のつづまったものという。「……ではないことなのに」の意の詠嘆表現。

* 「ついでおもしろき」以下は作者の批評。ちようど「信夫摺り」の狩衣を着ていたればこそ、源融の歌をふまえる即興が生きる。狩衣を切つて添え歌には模様につながる縁語を織り込み、地名「春日野」を冠して縁語の一つ「若紫」に姉妹讚美の意をこめる。この即興のあざやかさを「ついでおもしろき……」と評したもの。「おいづきて」も見落してはならない作者の評語（解説参照）。

雨の後朝

二 平安京の中央を南北に貫く朱雀大路から西半分。右京とも。左京（東の京）に比べ土地が低く、「人の家さだまる」につれ、平安京のにぎわいは左京中心になつていった。

三 「かたち」は容貌と姿態とを含めた外面の様子。

四 「ひとりあり」は、通い婚の時代の女の場合、夫と定める男のない状態を言う。

五 「うちものがたらふ」は、しんみり話をするの意だが、男女の間では契りを結ぶこと。

みちのくのしのぶもぢずり誰ゆゑに

みだれそめにし我ならなくに

1附

といふ歌の心ばへなり。むかし人は、かくいちはやきみやびをなむ

しける。

二

むかし、男ありけり。平城の京ははなれ、この京は人の家まださ

着いていなかた

だまらざりける時に、西の京に女ありけり。その女、世人にはまさ

れりけり。その人、かたちよりは心なむまさりたりける。ひとりの

みもあらざりけらし。それを、かのまめ男、うちものがたらひて、

〔翌朝〕

かへりきて、いかが思ひけむ、時は三月のついたち、雨そほふるに

情況の下で（歌を）贈った